

令和8年度 学校経営計画書

新見市立新見南中学校

1 本校のミッション（使命）切り拓く体験

これからの社会は急速に変化し、予測困難な時代となり人工知能(AI)の飛躍的な進化を含む ICT の技術革新は、Society5.0 の到来を加速化しています。このような中で、これからの社会を担う生徒達には、一人一人が持続可能な社会の担い手として、多様な他者との「対話や協働」を進めることで、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値(ウェルビーイング)を生み出していくことが期待されています。こうした中で、多様な個性や環境にある生徒一人ひとりに「豊かな心と健やかな体」(人間力)、「主体的に学ぶ力」(表現力)、「非認知能力」(創造力・対話力)、すなわち、これからをともに生きる人々を支えるために、不易と流行を見据え、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためにも「落ち着いた居心地のよい学級経営」と「生徒主体の授業改善」が本校に課せられた使命である。

本校教育に携わる全ての教職員が連携・協力して、学校経営に積極的に参画し、使命感を持って自らの資質能力を磨き、生徒のためにより良い教育活動を創造する必要がある。

保護者、地域、関係機関との連携を深め、生徒が地域に関心を持ち、様々な課題を自分事として考え、地域の方々との協働的な活動を通して、社会や自己に対する理解を深めさせたい。小中高大連携の推進も生徒のキャリア形成にとって重要な取り組みと捉える。育てたい生徒像を明確にして、学校、保護者、地域が協力し、信頼関係を基盤とした教育を実践により、学校教育目標である「希望ある未来を切り拓く生徒の育成」を達成できると考える。

2 内外の環境分析

本校は、新見市の南部に位置し、旧4中学校の広域な学区を持つ。サッカー場や陸上競技場などのスポーツ施設(防災公園兼用)と緑豊かな自然に囲まれた恵まれた環境の中にあり、学校統合の結果、平成22年に開校して本年度で17年目を迎える。生徒は全体的に素直で、学校行事や部活動にも積極的に取り組んでいる。

約3割の生徒がバス通学であり、遠隔地から通学する生徒もいる。広範囲な学区であるが、地域民の学校への関心は高く、協力的である。

平成28年度から中学校区で小中一貫教育がスタートし、義務教育9年間を見通した教育が推進されている。保護者は教育熱心で各種行事やPTA活動に協力的で、同じく平成28年度にスタートした学校運営協議会制度(CS)の機能や地域との連携を生かした取組も求められ、地域の公民館を拠点とした交流活動等を行っている。

令和4年度から、学校や教室に行きにくい生徒の居場所となり、教室復帰や自立を応援するための部屋として、ステップルームを設置している。

3 本校のビジョン（学校像・生徒像）

学校教育目標である「希望ある未来を切り拓く生徒の育成」を具現化するために、生徒に主体的に学ぶ力と心豊かでたくましく生きる「人間力」の育成を図るとともに、教育活動全体を通して、生徒が“切り拓く”体験に挑戦をし、それを自身の未来に生かそうとする態度を育む。そのために「学校力」と「教師力」を高め、地域に開かれ、地域に根ざした信頼される学校をめざす。

【本校がめざす学校像】

- 生徒が行ってよかったと思える学校
- 保護者が行かせてよかったと思える学校
- 教職員が勤務してよかったと思える学校
- 地域の方が誇れる学校
- 安心・安全・居心地のよい学校

【本校がめざす生徒像】

- あいさつ、返事を日常的にする生徒
- 人権感覚をもって、物事に取り組む生徒
- 課題解決に協働して取り組む生徒
- 自分と向き合い高められる生徒
- 他者や地域とつながる元気な生徒

4 今年度の具体的な取組・計画

(1) 落ち着いた学習環境の確保(居心地のよい落ち着いた学級)

- 学習規律を遵守し、積極的に学習活動に取り組む生徒を育成する。
- 生徒が課題探究・解決へ主体的・協働的に取り組み、達成感、自己肯定感を味わえる授業づくりを進める。
- 生徒指導・特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりを工夫する。
- 安全で、整頓された教室等の学習環境をつくる。

(2) 安心して生活できる学校づくり(指示が通る学級)学級担任2人制(チームローテーション)

- 学級担任2人制(チーム担任制)を導入し、いじめ問題対策基本方針に基づき、日常のきめ細やかな観察や教育相談を通していじめの未然防止・早期発見・早期対応に心がける。
- 「いじめを考える集会」や「人権集会」、1年次で「人権」をテーマとしたグループ探究を行う。また、**学校生活に関するアンケート**の実施を**毎週月曜日**に位置づけ学校生活、社会生活のルールやマナーなど**規範意識、人権感覚**の高揚を図り、**自己選択・自己決定**をさせる中で、**自己指導能力、自己調整能力の育成**を行う。
- 多様性についての理解を進め、お互いを認め合いながら共に生きようとする態度を育成する。
- 自立応援室「ステップルーム」の機能を生かし、不登校、不登校傾向の生徒の**居場所づくり**と教室復帰、自立の支援・応援を行う。

(3) 学力の定着・向上(学びを生徒に委ねる)

- 学びを生徒に委ねるためにも先行学習を基盤とした「**学び合い**」のある**授業づくり**を進めるとともに、協働の目的を明らかにし、その効果を生徒も実感できる授業改善について研修を深め、授業力向上を目指す。
- IWB やタブレット端末(iPad)を効果的に活用し、基礎的内容の定着と自己表現力の向上を図る。
- 対話する力を養うため、対話場면을積極的に設け、“話す、聞く、やり取りする”ルーブリックの有効活用や外部講師などの活用によりスキルアップと自信を高めさせる。
- 先行学習**を行い授業において**生徒のアウトプットを6割以上**確保した授業改善に取り組ませる。
- 自己探究学習**(課題解決型学習)に主体的に取り組ませる。
- 「**南中ノート**」を活用し家庭学習の時間を確保する観点から、生活習慣の見直しを行う。
- スマホ・ゲーム・メディア等の利用についての指導と保護者への啓発を継続する。

(4) 心豊かで自律できる生徒の育成(心理的安全性の醸成・思いやりのある絆づくり)

- 内発的動機づけ**を行い、生徒が自分と向き合い、互いに高め合い認め合う集団を育成する。
- 基本的な生活習慣(あいさつ・会釈・時間・身だしなみ・整理整頓)の定着、「**凡事徹底**」を図る。
- 道徳の時間を要とした道徳教育の充実を図り、道徳的心情、判断力、実践意欲などの道徳性を養う。
- 生徒会活動や学級活動などの特別活動を充実させ、生徒の自治的な活動を推進する。
- 掃除やボランティア活動の意義を理解し、主体的に取り組む意欲を養う。
- 格言・四字熟語を通して、規範意識や思いやりの醸成を図り、よりよい生き方を希求する態度を養う。

(5) 教育相談や各種検査等による効果的な支援(気軽に相談できる雰囲気づくり)

- 発達段階を踏まえた生徒理解に努め、生徒と教師、生徒同士の好ましい人間関係を構築する。
- 教育相談を計画的に実施し、生徒理解会議で全職員が情報を共有する。
- OSCと連携し、SCによる心理教育プログラムや定期教育相談を実施する。
- 学習状況調査(4月)**や**i-check 検査(5月・10月)**の結果を学級・学年で効果的に活用する。
- 保護者や関係機関と日常的に連携し、協力体制のもとで課題解決を図る。

(6) 心身を鍛え、健康でたくましい生徒の育成(部活動・体力づくりへの積極的な参加)

- 教科、部活動や学校行事などをおして健康な心身を育てる。
- 南中クラブ活動(年間13回)**の充実を図る。
- 栄養教諭やゲストティーチャーを活用し、専門的な見地から性教育、食育などの充実を図る。

(7) 地域と連携した教育活動の展開(ボランティア活動の充実・参加拡大を図る)

- 中1ギャップ解消に向けた新見南中学校区小中連携教育の充実を図る。(全体研修 年1回)
- 学校運営協議会(CS)**の機能を生かし、地域学習“なんプロ”の充実を柱とする地域協働型の活動を実現し、併せて地域に開かれた学校づくりを促進させることで地域とつながる力を育てる。
- ふるさとキャリア教育を体系的に推進し学区内各地区の交流を通して、他者とつながる力を育てる。
- 地域理解の深化を通して、グローバルな視点への発展やPBL(課題解決型学習)につなげる。
- 地域学校協働活動**を推進し、学校支援ボランティアの方々に積極的に補充学習、ボランティア活動、授業支援に関わっていただき学校を核とした地域づくりを目指す。

(8) 危機管理と防災教育の実施(安全・安心な学校づくり)

- 防災や熱中症予防、感染症予防について未然防止のための指導と迅速な対応を行う。
- 保護者を含め、情報モラル教育を進め、ネット被害やSNSのトラブル防止に努める。
- 地域と連携し、防災教育の推進を図る。

(9) 働き方改革(生徒と向き合う時間の確保)

- 全教職員が健康に働けるため、時間外業務を減少させるため、行事の精選・内容の見直しや効率的・組織的な業務のあり方について検討し実践する。(時間外在校等時間 月45時間以内 年間360時間以内)

